

草津白根山

○火山活動度レベル（平成 18 年 6 月）

1（静穏な火山活動）

○概況（平成 18 年 6 月）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○噴気の状態

逢ノ峰（湯釜の南約 1 km）に設置してある遠望カメラでは、湯釜火口縁を超える噴気は観測されませんでした（図 1）。



図 1 草津白根山 湯釜付近の状況（6月7日、逢ノ峰遠望カメラによる）

○地震及び微動の発生状況

火山性地震の発生回数は 0～3 回と少なく、静穏に経過しました（図 2）。火山性微動は観測されませんでした。

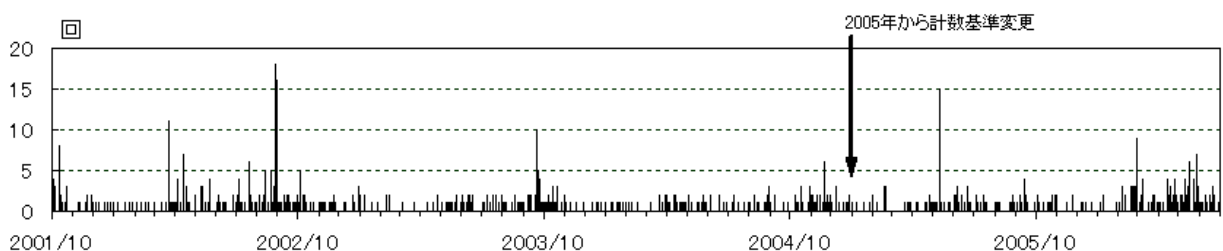


図 2※ 草津白根山 日別地震回数（2001 年 10 月 1 日～2006 年 6 月 30 日）

計数基準：2004 年までは A 点振幅 0.05 μm 以上で S-P 時間 2 秒以内

2005 年以降は A 点振幅 0.1 mkine 以上で S-P 時間 2 秒以内

（ただし、2004 年 5 月 19 日に草津白根山の北西約 10km 付近に発生した構造性地震は除外しています）

※この資料は気象庁のほか、東北大学、東京大学、京都大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○調査観測の結果

2006年6月7日に実施した赤外熱映像装置¹⁾による観測では、湯釜北方斜面の地表面温度分布に特段の変化はみられませんでした。(図3、図4)。なお、同斜面で昨年まで噴気を上げていた噴気孔の活動は停止し、その北側の数m横に新たに形成された2つの噴気孔を確認しました。両噴気孔とも噴気は弱いものの、その温度は沸点を超えており、右側の噴気孔内には熱水がたまっているのを確認しました。また、噴気孔の周辺には灰褐色の付着物が確認できました(図5)。

- 1) 物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

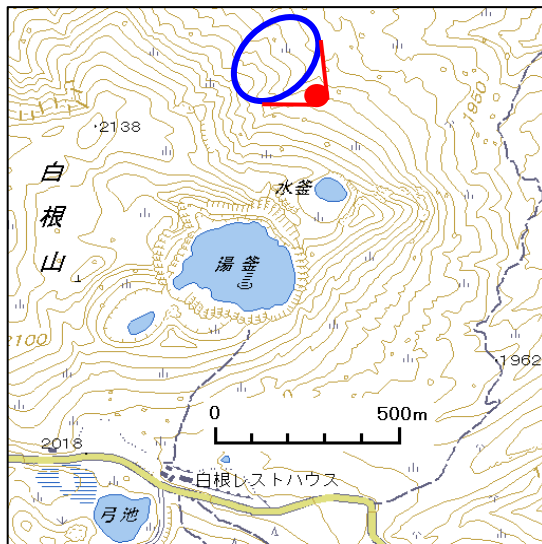


図3 草津白根山 表面温度観測範囲

○: 北方斜面の赤外熱映像観測領域
 ↗: 撮影方向

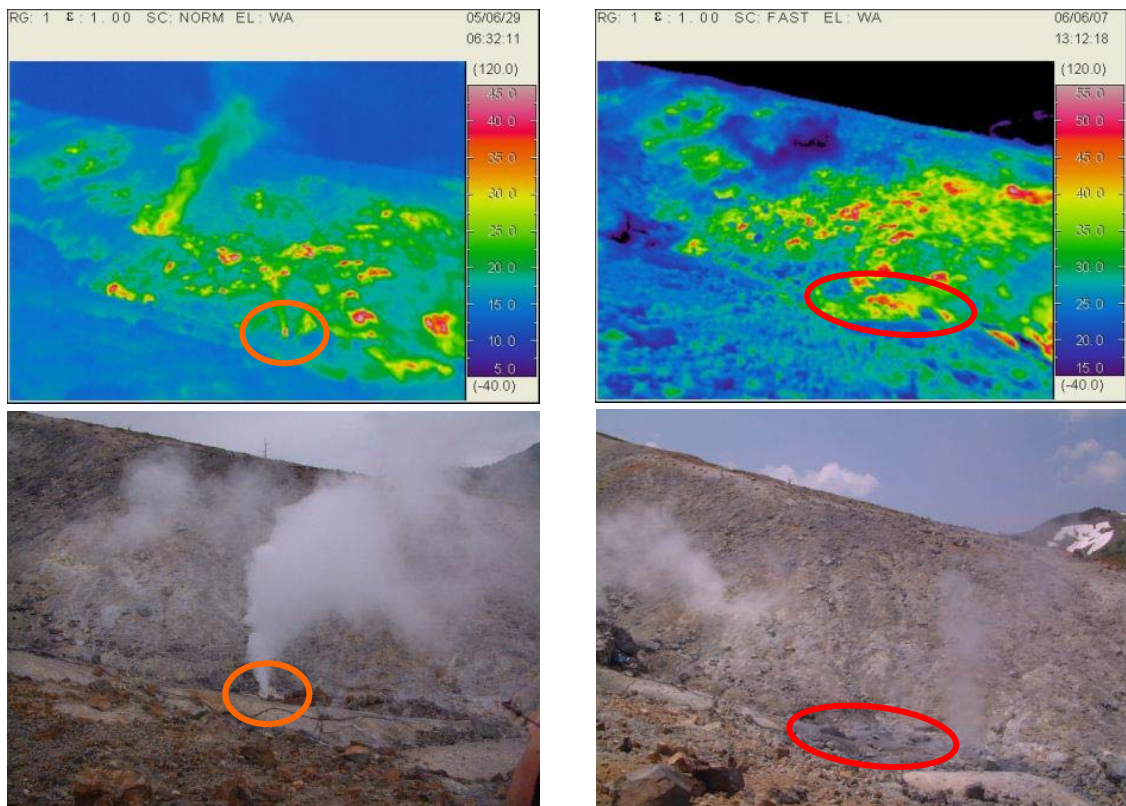


図4 草津白根山 北方斜面の地表面温度観測 (噴気孔までの距離約 50m)

上段: 赤外熱映像装置による温度分布 下段: 上図とほぼ同じ範囲の可視画像

- : 昨年まで噴気を上げていた噴気孔 (2005年6月29日撮影)
 ○: 今年確認された新たな噴気孔 (2006年6月7日撮影)

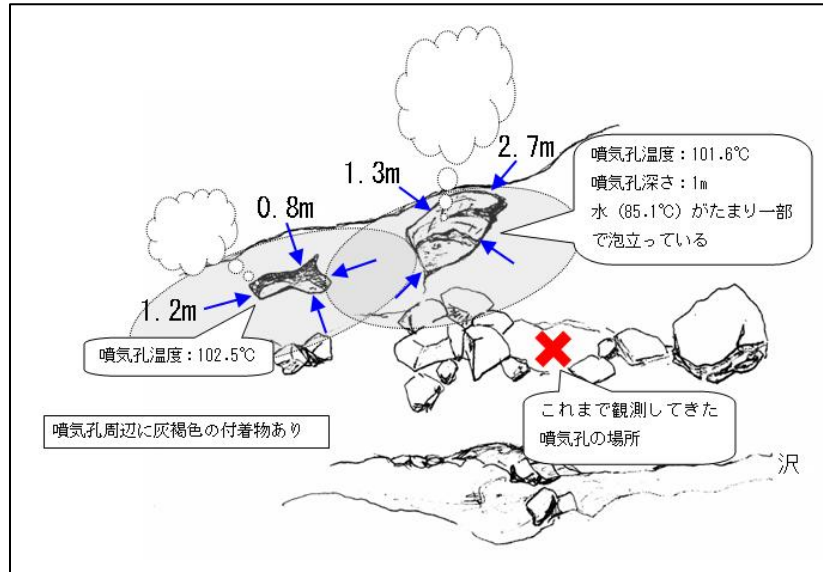


図5 草津白根山 北方斜面に新たに出現した噴気孔の状況 (2006年6月7日)

上段：噴気孔スケッチ及びサーミスタ温度計による噴気孔温度

中段：同噴気孔の写真 **X**：昨年まで噴気を上げていた噴気孔位置 **O**：新しい噴気孔位置

下段：新たな噴気孔の左側の拡大写真及び右側拡大写真

○地殻変動の状況

G P S 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした (図 6)。

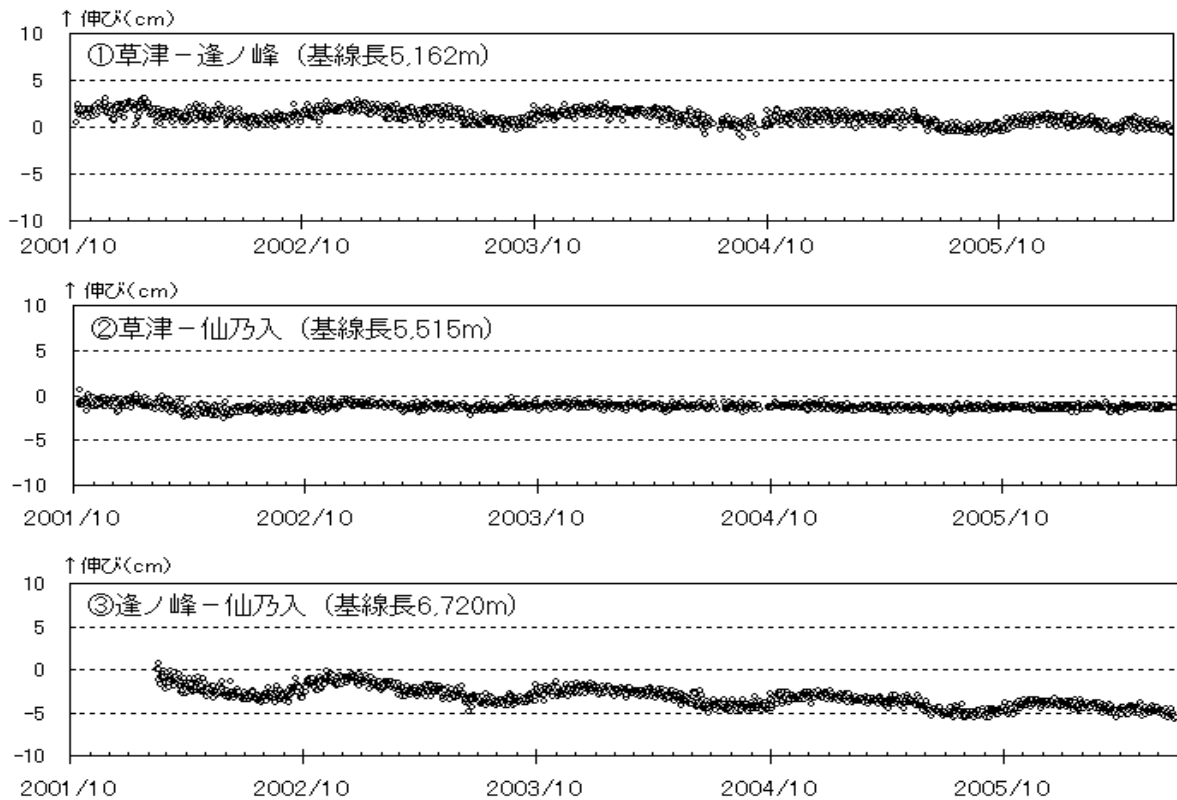


図 6 草津白根山 G P S 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月 1 日～2006 年 6 月 30 日)
基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

○観測点情報

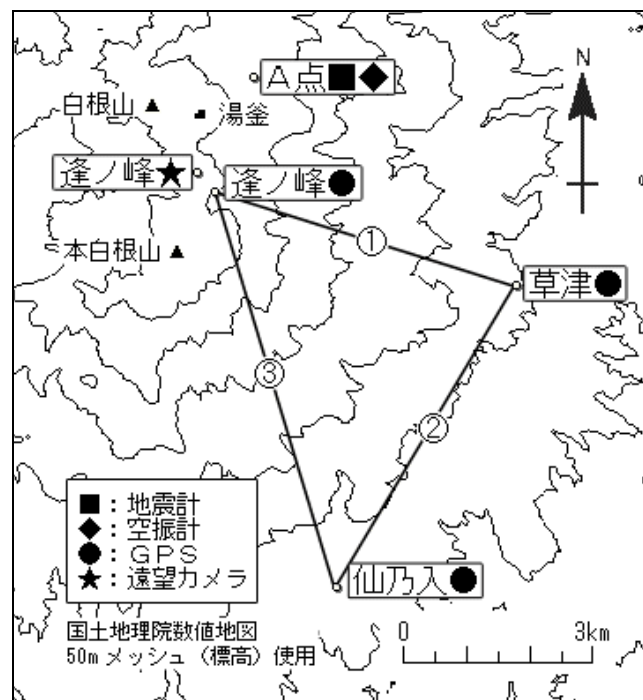


図 7 草津白根山 気象庁の観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)